COCET『研究論集』執筆要綱

（版組およびページ番号・ページ総数）

1. 原稿の版組およびページ番号・ページ総数は、次のとおりとする。

（1）原稿はA4版縦置き横書き1段組とし、上下左右にそれぞれ30mmの余白をとる。1ページの字数は、和文の場合は44文字38行，英文の場合は88文字38行とする。

（2）原稿にはページ番号を入れない。論文の長さは、図表・資料・参考文献すべてを含めて10ページ以内とし、ページ総数は偶数であることが望ましい。

（字体および算用数字表記）

2. 字体および算用数字表記は、以下のとおりとする。

（1）字体

　和文についてはMS明朝、英文についてはCenturyとし、フォントは和文英文ともに10.5ポイントとする。英文要旨の見出し、キーワードの見出しと内容、章・節・項目・謝辞・注・参考文献の見出しはすべてボールドとする。

（2）算用数字

　本文中では桁数に関わらず半角数字を用いる。算用数字のフォントはCenturyに統一する。但し、「注１）（右肩上付き文字）」、執筆者の所属番号「１＊（右肩上付き文字の数字とアスタリスク）」のみ全角を用いる。

（タイトルおよび執筆者名）

3. タイトルおよび執筆者名の表記は、次のとおりとする。

（1）タイトル

　1行目から始め、センタリングする。フォントは10.5ポイントとする。サブタイトルがある場合は、改行した上で「‐」で始めて半角空け、サブタイトル、さらに半角空けて再度「‐」をつける。

（2）執筆者名

　タイトルから1行空けて記し、センタリングする。姓名の間を全角スペース空け、名前の右肩に上付き文字「１＊」を入れる。右肩上付き文字の数字とアスタリスクは全角とする。連名の場合は執筆者名の間を全角のカンマで区切り、上付き数字とアスタリスク「１＊, ２＊, ・・・」で所属番号を示す。執筆代表者は「１＊」とする。勤務校は本文の終わりに（○○高等専門学校）と付記すること。

（3）英文表記

　和文原稿の場合は、執筆者名から1行空けて英文タイトルを、サブタイトルがある場合は半角「:」を付し、改行してサブタイトルを、さらに1行空けて英綴りの執筆者名を、いずれも10.5ポイントでセンタリングして記載する。前置詞、冠詞、以外は大文字で始めること、ただし機能語の場合はその限りではない。執筆者が2名の場合は執筆者名の間を “and” で区切る。3名以上の執筆者の場合は、最後の区切りのみ “and” とし、それ以外はカンマで区切って横に並べる。なお、氏名の英文表記はTANAKA Taroとする。

（4）英文原稿

　英文原稿の場合、タイトル・執筆者名は英文のみとし、和文タイトル・和文執筆者名は記載しない。

（執筆者の所属）

4. 本文の末尾に、全執筆者の所属機関名を記す。上付き数字とアスタリスクを（　）の左肩に記し、（　）に所属機関名を入れる。英文原稿の場合は英語表記とする。例：

１＊（春野菜工業高等専門学校）、２＊（NIT Mibu College, Hahakigi Campus）

（英文要旨：Abstract）

5. 英文要旨は、10.5ポイントのCenturyボールドで「Abstract」と見出しを付し、改行した上で、英文で100 words以内とする。フォントはCenturyで10.5ポイントとする。1行目は5スペースインデントする。

（キーワード：Keywords）

6. キーワードは、英文要旨との間を1行空けて、10.5ポイントのCenturyボールドで「Keywords」と見出しを付し、全角のコロンを入れ、その後にキーワードをCenturyボールドで列挙する。英単語もしくは英フレーズで表し、4つ以内とし、先頭の文字を大文字とする。句読点は半角カンマを用い、2スペースを空けて次のキーワードを記す。例：

 Keywords：Examples, Corpus-based, Encoding, Collocation

（章・節・項目の見出し）

7. 章・節・項目の見出しは次のとおりとする。

（1）章の見出し

　10.5ポイントのボールドとし、上を1行空ける（改行1行）。見出し番号の数字はCenturyとし、後ろにピリオドを入れ半角スペースの後、見出し文を記す。

（2）節・項目の見出し

　10.5ポイントのボールドとし、上を1行空ける。ただし章見出しの直後に文章や図表がない場合は、章見出しとの間の1行空けは不要。見出し番号の数字はCenturyとし、数字間は左右スペースなしでピリオドを入れる。見出し文との間は半角スペース空ける。

（本文）

8. 本文は次のとおりとする。

（1）和文

　横書き1段組で44文字38行を1ページとし、字体は10.5ポイントのMS明朝、算用数字はCenturyを用いる。段落の最初は全角1スペース空ける。句読点は 「、」「。」を用い、全角で表記する。（　）等の記号も全角を用いる。

（2）英文

　1段組で88文字38行を1ページとし、字体は10.5ポイントのCenturyを用いる。段落の最初は5スペースインデントする。

（図、表、写真、グラフ等）

9. 図、表、写真、グラフ等は次のとおりとする。

（1）写真とグラフは図として扱う。

（2）図、表には番号と簡潔なタイトルをつける。タイトル番号は全角を用い、「図１」、「表１」等と表記する。番号、タイトルともに10.5ポイントのMS明朝で記す。コロンは全角を用いる。英文原稿の場合、タイトル番号は半角を用い、「Fig. 1」、「Table 1」等と表記する。コロンは半角を用い、半角1スペースの後、簡潔なタイトルをつける。

（3）タイトルの位置は、表の場合は部、図の場合は下部とする。

例： 　　　　表1：タイトル

　　　　　　　　図1：タイトル

例： 　　　Table 1: 〇〇〇〇

　　　　　　　　Fig. 1: 〇〇〇〇

（4）図、表は白黒で作成し、本文~~中~~に挿入する。図、表中の文字は読み取りやすいよう十分に大きくし、画像は鮮明なものを用いる。

（文献の引用・言及）

10. 文献の引用については、次のとおりとする。

（1）原文をブロック引用する場合は、本文と引用部分との間を1行ずつ空け、和文の場合は3字分、英文の場合は10スペース行頭を下げる。なお続けてブロック引用する場合は、引用と引用の間を一行空ける。

（2）引用を本文中に組み込んでも3行以内のものは、「　」内に入れて示す。ただし例文比較のようなものはブロック引用しても良い。省略した部分は「…」（和文）もしくは「. . . 」（英文：three dotsただしdotの後ろはそれぞれ半角1スペース空ける）で明示する。

（3）引用・言及の典拠は、（　）中に執筆者名と執筆年を記す。執筆年は半角表記で、執筆者名と執筆年の間に全角カンマを入れる。例：（吉田，1999）。ページ数を示す必要がある場合は（吉田，1999：138-39）［和文の場合コロンは全角、英文の場合は半角コロンと半角1スペース］とする。本文中にそれらの書誌データのいずれかが示されている場合は、（　）中には記載されていない情報だけを示す。

（謝辞）

11. 予算や研究内容へのサポートがあった場合は、「謝辞」でその事実を示す。見出しは「謝辞」とし、本文末の執筆者の所属を記載した行から1行空けて記す。見出しは10.5ポイントのボールドとする。文章の文体は本文と統一する。

（注）

12. 「注」については、以下のとおりとする。

（1）本文中に説明・議論内容を入れることが困難な場合にのみ、「注」を用いる。注は脚注でなく、尾注とする。

（2）見出しは「注」とし、「謝辞」がある場合はその文末から1行空けて、ない場合は本文末の執筆者の所属を記載した行から1行空けて記す。2行目以降は行頭を全角2文字空ける。

（3）見出しは10.5ポイントのボールドを用いる。

（4）なお本文中には、注１）注２）のように上付きで挿入する。算用数字は「全角」とする。句読点（「、」や「。」）がある場合は、その中に組み込む。例：

 …言及があるが注１）、…とされている注２）。

（参考文献）

13. 引用・参考にした文献は、原稿の最後にまとめて次のとおりに記載する。

（1）見出しは「参考文献」とする。10.5ポイントのMS明朝で、ボールドを用いる。上を1行空ける。

（2）書誌データは、見出しの次の行から、外国語文献、日本語文献の順に記す。ただし「外国語文献」、「日本語文献」という小見出しは不要。

（3）表記は10.5ポイントとし、句読点は外国語文献では英語Century（半角）の「 , . ; : 」を、日本語文献では日本語MS明朝（全角）の「 ，．；：」を用いる。2行目以降は行頭を全角2文字空ける。

［ア．外国語文献］

　10.5ポイントのCenturyを用い、著者のアルファベット順で列挙。基本的にはAPAスタイルに則り、各ピリオドの後は1スペース空け、2行目以降は行頭を4スペース空ける。ファーストネームは最初の文字だけ表記する。

a) Article in a journal: Author (Year). The Title of Article. The Title of a Magazine, Vol.xx(x), pages.（2行目以降は半角4文字インデント。タイトルと巻はイタリック体に。）

<ex.>

Cocet, T. (2010). IT and language teaching. *EFL Journal in Japan*, *35*(3), 123-134.

Cocet, T., & Kosen, J. (2010). IT and language teaching. *EFL Journal in Japan, 35*(3), 123-134.

b) Article in a book: Author (Year). The Title of Article. In Author (Ed.), *The Title of a Book* (pp.xxx-xxx). Place: Publisher.

<ex.>

Cocet, T. (2010). IT and language teaching. In S. Kosen (Ed.), *Teaching Technical English in Japan* (pp.123-134). Tokyo: Whitewell.

c) Book: Author (Year). *The Title of a Book*. Place: Publisher.

<ex.>

Kosen, J. (2001). *Teaching English for Engineering Students: A Pedagogical Framework and Methods*. Tokyo: Whitewell.

d) Internet: Author (Year). *The Title of Article*. Retrieved date, from: URL

<ex.>

Kosen, J. (2001). *Teaching English for Engineering Students: A Pedagogical Framework and Methods*. Retrieved February 2, 2016, from: http://www.cocet.com/article/05.pdf/

［イ．日本語文献］

　10.5ポイントのMS明朝を用い、著者のあいうえお順で列挙。句読点は「，」「．」を用い、全角で表記する。（　）も全角を用いる。2行目以降は行頭を全角2文字空ける。

a）論文（書籍に掲載された論文の場合）：著者名（出版年）．「論文名◯◯◯◯◯◯◯◯」．編者名（編）『書物のタイトル◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯』ページ番号．出版地：出版社．（2行目以降は全角2文字インデント）

（例）

◯◯◯◯（2009）．「効果的な語彙指導法」．◯◯◯◯・◯◯◯◯（編）『英語指導法ハンドブック』（pp. 100-125）．東京：成美堂．

b）論文（雑誌に掲載された論文の場合）：著者名（出版年）．「論文名◯◯◯◯◯◯◯◯」『雑誌のタイトル◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯』第◯巻，第◯号，ページ番号．（2行目以降は全角2文字インデント）

（例）

◯◯◯◯（2009）．「音読を重視した指導の試み－◯◯高専の事例をもとに」『全国高等専門学校英語教育学会研究論集』第◯号，1-10．

c)書籍：著者名（出版年）．『タイトル◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯』場所：出版団体．

（例）

◯◯◯◯（編）（2011）．『COCET40年史』東京：◯◯◯出版．

d）インターネット：

著者名（出版年）．「論文・記事名◯◯◯◯◯◯◯◯◯◯」．URL （最終検索日：）

（例）

◯◯◯◯（2009）．「多読を住した指導の試み － ◯◯高専の事例をもとに」．

http://www.cocet.com/article/05.pdf/ （最終検索日：2016年2月2日）

原稿提出

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　11月20日

複数の査読委員へ送付

査読委員より結果回収

C：掲載不可

（今回の掲載は見送る）

A：掲載可

（採用確定）

B：条件付き掲載可

執筆者修正

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　12月下旬

査読委員確認

編集委員会確認

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　NO

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　OK

C：掲載不可

（今回の掲載は見送る）

印　　刷

図１：原稿執筆から印刷までの流れ

（この規定は平成30年9月14日より適用する）